

機械工学群（機械理工学専攻・マイクロエンジニアリング専攻・航空宇宙工学専攻）

I. 専攻別志望区分

(1) 教育プログラム

修士課程教育プログラム（2年）、および修士課程と博士後期課程を連携した前後期連携教育プログラム（5年）を設けている。選抜方法はそれぞれの教育プログラムにより異なる。特に、前後期連携教育プログラムには、通常の一般選考に加え、筆記試験を免除する特別選考を設ける。前後期連携教育プログラムに関する詳細は本募集要項「Part A: X 修士課程入学後の教育プログラムについて」、および工学研究科 HP（「工学研究科教育プログラム」<https://www.t.kyoto-u.ac.jp/ja/education/graduate/dosj69>）を参照すること。

教育プログラム		選抜方法
修士課程		一般選考
前後期連携	高度工学コース	特別選考
	融合工学コース	一般選考

(2) 専攻別志望区分一覧

専攻	志望区分	研究内容	教育プログラム		
			前後期連携 (融合工学コース)*	前後期連携 (高度工学コース)	修士課程
機械理工学専攻	1	ヒューマンマシンシステム設計、ソーシャルロボティクス、サイバネティック・アバター、システム工学	a, f	任意の志望区分を選択できる	任意の志望区分を選択できる
	2	適応材料力学、先進材料強度学、複合材料工学、マイクロメカニクス	a, b		
	3	ナノ・マイクロ材料力学、微小材料強度学、ナノ構造体・薄膜、マルチフィジックス	a, b		
	4	環境流体力学、空気力学、大気乱流、混合・拡散、圧縮／非圧縮性乱流、衝撃波	a, c		
	5	熱工学、エネルギー変換、反応を伴う熱・物質・電荷輸送、可視化と計測、数値解析	a		
	6	分光計測学、プラズマ診断、レーザー計測	a, b, c, d, f		
	7	材料力学、環境発電/AI/量子機械デバイス材料機能設計、計算物理学、データサイエンス	a, b		
	8	熱力学、伝熱学、熱流体力学、燃焼工学、環境工学	a, d		

専攻	志望区分	研究内容	教育プログラム		
			前後期連携 (融合工学コース)*	前後期連携 (高度工学コース)	修士課程
機械理工学専攻	9	乗り物、搭乗型モビリティ、ロボット用メカニズム・機構学、ヒトの動作特性、ハプティクス、ロボット操作、能力マイニング	a, f	任意の志望区分を選択できる	任意の志望区分を選択できる
	10	ロボット工学、制御工学、ソフトロボティクス、生物規範ロボティクス、生体力学	a, c, f		
	11	機械機能要素工学、トライボロジー、表面・界面創成、粒状体の界面物理、電磁粒体力学、宇宙探査技術	a, b, f		
	12	量子ビーム応用、結晶・非晶質材料、高温高圧、宇宙地球物質の合成、中性子回折装置の設計	a, b		
マイクロエンジニアリング専攻	13	最適システム設計、生産システム、コンピュータ援用設計・生産・解析	a, f		
	14	生体模倣システム、機械学習、ナノ・マイクロ加工、マイクロ流体力学、細胞・分子生物学	a, c, f		
	15	ナノ・マイクロシステム、半導体微細加工・デバイス、センサ、アクチュエータ、ナノ構造物理	a, c, f		
	16	量子ビーム工学、表面・界面物性	a, b		
	17	複雑適応システム、アクティブマター、生物物理学、計算力学	a, b, c		
	18	ナノ形態制御、ナノ粒子、ナノワイヤ、光機能デバイス、マイクロ熱流体工学	a, b, d		
	19	計測工学、精密加工学、加工の知能化、制御理論応用	a, f		
	20	生体組織・細胞力学、メカノバイオロジー、計算力学、分子力学計測	a, c, f		
	21	バイオエンジニアリング、マイクロ流体工学、1細胞生物学、オミクス、遺伝子制御	a, c		
航空宇宙工学専攻	22	流体力学、高速空気力学、分子気体力学	a		
	23	非平衡流体力学、希薄気体力学	a		
	24	電離気体・反応性気体工学、プラズマ理工学、プラズマプロセス工学、宇宙推進工学	a, b		
	25	システム制御理論、最適制御、非線形制御、システム同定、統計的学習、航空宇宙システム	a, f		
	26	弾性波動、非破壊評価工学、複合材料・構造、動的破壊力学	a		

*前後期連携教育プログラム（融合工学コース）の対応

- a. 応用力学分野
- b. 物質機能・変換科学分野
- c. 生命・医工融合分野
- d. 融合光・電子科学創成分野
- e. 人間安全保障工学分野
- f. デザイン学分野

※各分野の詳細は、工学研究科 HP（「工学研究科教育プログラム」
<https://www.t.kyoto-u.ac.jp/ja/education/graduate/dosj69>）参照

II. 募集人員

機械工学群（機械理工学専攻、マイクロエンジニアリング専攻、航空宇宙工学専攻） 113名
（前後期連携教育プログラムの募集人員若干名を含む）

III. 出願資格

(1) 一般選考

本募集要項「Part A: II-i 出願資格」に記載の条件を満たす者。

(2) 特別選考

本募集要項「Part A: II-i 出願資格」に記載の条件を満たし、指導予定教員と事前に十分面談を重ね、受入承諾書を交付された者。事前コンタクトにおいては、指導予定教員が志願者の希望する学習・研究内容と、指導予定教員の研究活動との整合性の有無を判断する。さらに、修士課程入学後の学習・研究活動を円滑に進めるため、志願者と指導予定教員のディスカッションを通じて研究計画を出願前に明確化する。

IV. 学力検査日程

(1) 一般選考

8月2日（日）	9：30～11：30 数学	13：00～14：30 機械力学
8月3日（月）	9：00～12：30 専門科目	

※ 試験場は桂キャンパスCクラスターである。詳細は受験票送付時に通知する。

(2) 特別選考

5月27日（水）	10：00～18：00 のいずれかの時間帯（約20分） 予備選考面接
----------	---------------------------------------

※ 試験場は桂キャンパスCクラスターである。

※ 予備選考の可否は郵便で通知する。

8月3日（月）		14：30～ 口頭試問
---------	--	----------------

※ 試験場は桂キャンパスCクラスターである。詳細は受験票送付時に通知する。

V. 入学試験詳細

(1) 配点と選考方法

(a) 一般選考

科目	配点
英語	120点
数学	180点
機械力学	150点
専門科目	400点
合計	850点

専門基礎に関する筆記試験と英語に関する TOEFL テストの成績により決定する。

(b) 特別選考

科目	配点
英語	120点
口頭試問	730点
合計	850点

英語に関する TOEFL テストの成績および口頭試問により決定する。事前の予備選考を行うため、**一部提出書類の締切日が早い** (VI. (2) 参照) ので注意すること。予備選考に不合格であった受験者は希望すれば一般選考を受験することができる。

(2) その他

(a) 科目について

(i) 機械力学

工業力学、振動工学から出題する。

(ii) 専門科目

流体力学、熱力学 (統計熱力学を含む)、材料力学、制御工学から出題する。

(iii) 英語

筆記試験は行わず、TOEFL テストの成績 (120 点満点) で代用する。成績の提出方法その他については、下記の項目 (e) および VI. (1)、VI. (2) を参照のこと。提出がない場合は英語の得点が 0 点となる。

受験資格により TOEFL を受験することが困難な場合は、下記 VI. (3) まで連絡すること。

(iv) 口頭試問

受験者による研究計画についてのプレゼンテーションの後、研究計画および専門知識に関して試問を行う。

受験者が口頭試問の発表指導を指導予定教員から受けることを妨げない。発表指導においては、口頭試問において受験者が説明しようとしている研究計画が、事前コンタクトで確認した内容と一致するように指導する。

(b) 合格者の決定法

(i) 原則として、総得点が 425 点 (基準点) 以上の者を有資格者とする。ただし、問題の難易度に応じて有資格判定の基準点を調整することがある。

(ii) 有資格者の成績上位の者から合格者を決定する。

(iii) 合格発表後、入学辞退等があれば有資格者の中から繰り上げ合格者を決定する。

(c) 留学生 (卒業見込みを含む) への注意事項

本機械工学群では、日本の大学を卒業した留学生 (卒業見込みを含む) は本試験を受験することを強く推奨する。その他の留学生は、本試験ではなく 2 月実施予定の試験を受験することを強く推奨する。ただし、いずれの留学生も出願に先立って、下記の VI. (3) まで必ず詳細を問い合わせること。

(d) 学力検査に関する注意事項

(i) 試験会場や試験に関する注意などは、2026 年 7 月 27 日 (月) ~ 8 月 3 日 (月) に桂キャンパス C クラスター C3 棟 1 階 (b 棟) 掲示板に掲示する。

(ii) 試験開始 20 分前までに試験室に入室すること。

(iii) 試験開始後 30 分以上遅刻した者の入室は認めない。

(iv) 試験開始後の途中退室は認めない (用便等、一時退室を特別に認める場合を除く)。

(v) 時計を持ち込んでよいが、計時機能のみを有するものに限る。

(vi) 定規、コンパス、辞書、電卓、およびこれらに類するものの使用は認めない。

(vii) 携帯電話等の電子機器類は、なるべく試験室に持ち込まないこと。持ち込む場合には、電源を切り、かばんにしまって所定の場所に置くこと。身につけている場合、不正行為と見

なされることがあるので注意すること。

(viii) その他の注意は試験室にて与える。

(e) TOEFL 成績の提出について

- (i) 2024年8月2日以降に受験した TOEFL-iBT の成績を有効とする。 TOEFL-ITP および TOEFL-iBT Home Edition の成績は受け付けない。以下の項目(ii)および(iii)の手続きにより成績を提出すること。提出がない場合は英語の得点が0点となる。2026年1月21日以降実施分のスコアが提出された場合には0-120のスコアスケールでの素点を用いる。なお、Test Date Scoresのみを利用する。
- (ii) ETS アカウント (My TOEFL Home) からダウンロードした Test Taker Score Report を印刷したものを提出すること。
- (iii) ETS アカウント (My TOEFL Home) からスコアの電子送付を行うこと。その際、送付先の Institution Code (DI コード) として「B431」を指定すること (Department Code の指定は不要です)。2026年7月27日(月)までに機械工学群「B431」に届くように、出願者の責任において送付手続きを取ること。なお、電子送付されたスコアの到着の有無についての問い合わせには回答しない。
- (iv) 原則として、電子送付されたスコアに記載の成績 (複数回のスコアが送付された場合は最高点) を英語の点数とする。
- (v) 英語を母国語とする受験者は、「英語を母国語とする旨の宣誓書」(様式4)の提出により TOEFL 成績の提出を免除することがある。免除を受けようとする場合には、予め下記の VI. (3) に詳細を問い合わせること。
- (vi) 受験資格により TOEFL を受験することが困難な場合は、下記の VI. (3) まで連絡すること。

<参考> TOEFL に関するホームページ:

<https://www.toefl-ibt.jp>

<https://www.ets.org/toefl.html>

VI. 出願要領

(1) 一般選考

本募集要項「Part A: III 出願要領」に記載の工学研究科に提出する出願書類の他に、以下の(a), (b)の書類を2026年7月16日(木)午後5時までに下記(3)の提出先に提出または送付(必着・書留便)すること (※2026年7月14日(火)以前の日本の発信局消印がある書留速達郵便に限り、期限後に到着した場合においても受理する。)。願書とは提出先が異なるので注意すること。

また、留学生においては、以下の(a), (b)の書類に加えて、以下の(c)の書類も提出すること。ただし、以下の(c)の書類については2026年5月27日(水)～2026年6月10日(水)午後5時まで(願書の提出期間と同じ)に下記(3)の提出先に提出または送付(必着・書留便)すること (※2026年6月8日(月)以前の日本の発信局消印がある書留速達郵便に限り、期限後に到着した場合においても受理する。)。願書とは提出先が異なるので注意すること。

※様式は工学研究科ホームページからダウンロードすること。

(a) TOEFL 成績に関する提出書類

項目 V. (2) (e) に記載の TOEFL テストの Test Taker Score Report を印刷したもの

(なお、項目 V. (2) (e) に指定した方法で機械工学群への電子送付手続きを別途済ませておくこと)

(b) 志望研究区分申告票 (様式1)

- (i) 合格者の研究室配属は、「志望研究区分申告票」により申告した志望区分番号に基づいて行う。

- (ii) 配属を志望する研究区分番号と氏名を記入し、押印すること。受験票が届く前に提出する場合は、受験番号欄には記入する必要はない。
 - (iii) 「IX. 教員・研究内容説明書」を参照して、第1志望から第26志望まで、異なる区分番号を漏れなく記入すること。
 - (iv) 番号の重複や空欄などの不備がないように注意すること。
 - (v) 不備のある場合には、当該合格者の志望順位は、機械工学群において決定する。
 - (vi) 願書の志望区分記入欄には記入する必要はない。
- (c) 志望する指導教員調書（様式6：留学生のみ要提出）
志望する指導予定教員の確認印（署名）を得たものを提出すること。（コピー可）
事前コンタクトにおいては、指導予定教員が志願者の希望する学習・研究内容と、指導予定教員の研究活動との整合性の有無を判断する。

(2) 特別選考

本募集要項「Part A: III 出願要領」に記載の工学研究科に提出する出願書類の他に、以下の(a)～(d)の書類を、2026年5月18日（月）午後5時までに下記(3)の提出先に提出または送付（必着・書留便）すること。願書とは提出先が異なるので注意すること。

※2026年5月15日（金）以前の日本の発信局消印がある書留速達郵便に限り、期限後に到着した場合においても受理する。

※様式は工学研究科ホームページからダウンロードすること。

- (a) 指導予定教員からの受入承諾書（様式2）
- (b) 学部成績証明書（最新のもの）
- (c) 希望研究コース・区分・分野等調査票（様式3）
- (d) 予備選考可否通知の返信用封筒（長形3号120mm×235mmに住所・氏名・郵便番号を記入、110円切手貼付）

さらに、以下の(e)の書類を、2026年7月16日（木）午後5時までに下記(3)の提出先に提出または送付（必着・書留便）すること。願書とは提出先が異なるので注意すること。

※2026年7月14日（火）以前の日本の発信局消印がある書留速達郵便に限り、期限後に到着した場合においても受理する。

- (e) TOEFL成績に関する提出書類

項目V.(2)(e)に記載のTOEFLテストのTest Taker Score Reportを印刷したもの

（なお、項目V.(2)(e)に指定した方法で機械工学群への電子送付手続きを別途済ませておくこと）

(3) 提出先・問合せ先

〒615-8540 京都市西京区京都大学桂

京都大学大学院工学研究科 Cクラスター事務区教務掛（機械工学群）

電話：075-383-3521 E-mail：090kckyomu2@mail2.adm.kyoto-u.ac.jp

参照：<https://www.me.t.kyoto-u.ac.jp/ja/admission/exam>

VII. 入学後の教育プログラムの選択

入試区分「機械工学群」の入試に合格することにより、入学後に履修できる教育プログラムは下記のとおりである。

前後期連携教育プログラム

融合工学コース（a. 応用力学分野、b. 物質機能・変換科学分野、c. 生命・医工融合分野、d. 融合光・電子科学創成分野、f. デザイン学分野）

※現在、「e. 人間安全保障工学分野」を選択できる志望区分は機械工学群にはありません。

前後期連携教育プログラム

高度工学コース（機械理工学専攻、マイクロエンジニアリング専攻、航空宇宙工学専攻）

修士課程教育プログラム

機械理工学専攻、マイクロエンジニアリング専攻、航空宇宙工学専攻

各教育プログラムの詳細及び融合工学コースの各分野の内容については、工学研究科 HP（「工学研究科教育プログラム」 <https://www.t.kyoto-u.ac.jp/ja/education/graduate/dosj69>）、および下記項目Ⅷを参照すること。なお、いずれのプログラムを履修するかは、特別選考の場合には希望研究コース・区分・分野等調査票（様式3）に志望コースを記入してⅥ. (2)に従い提出すること。一般選考の場合、前後期連携教育プログラムを志望する合格者は、研究室配属確定後、2026年10月26日（月）までにⅥ. (3)記載の提出先へ「教育プログラム志望調書」（様式5）を提出すること。なお、前後期連携教育プログラムを志望する場合は、志望区分の予定教員の内諾が必要である。教員が不明の場合やその他不明なことがあれば、上記Ⅵ. (3)まで問い合わせること。

Ⅷ. 教育プログラムの内容について（前後期連携教育プログラム高度工学コース・修士課程教育プログラム）

【前後期連携教育プログラム 高度工学コース】

○機械理工学専攻

機械工学の対象はマイクロからマクロにわたる広範囲な物理系であり、現象解析・システム設計から製品の利用・保守・廃棄・再利用を含めたライフサイクル全般にわたります。本専攻は、それらの科学技術の中核となる材料・熱・流体等に関する力学（物理）現象の解析および機械システムの設計論に関する教育・研究を行います。未知の局面において、従来の固定観念や偏見にとらわれない自由で柔軟な発想とダイナミックな行動力を有するとともに、機械工学の基礎となる幅広い学問とその要素を系統的に結びつけるシステム設計技術を融合させることができ、かつ、新しい技術分野に果敢に挑戦する、研究者・技術者群のリーダーを育成します。

○マイクロエンジニアリング専攻

微小な機械システムは21世紀における人間社会・生活に大きな変革をもたらす原動力です。また、生体は最精密な微小機械の集合です。本専攻は、それらのシステム開発の基礎となる微小領域特有の物理現象の研究をはじめ、微小機械に特有の設計・制御論に関する研究・教育を行います。ナノ・マイクロエンジニアリングのみならず医学・生命科学分野をはじめとする多くの分野に関連することから、本専攻では、機械工学を取り巻く異分野との融合領域における研究者・技術者を育成します。

○航空宇宙工学専攻

宇宙は21世紀における最大のフロンティアであり、自由な飛行は時代を超えた人類の夢です。その開発と実現を担う航空宇宙工学は、未知なる過酷な環境に対峙する極限的工学分野であり、機械系工学の先端知識を総合した革新的アイデアを必要とします。本専攻は、革新的極限工学としての航空宇宙工学に関する研究とその基礎となる教育を行います。近年の先端工学の発展には、その高度化・複雑化に伴い、従来の工学分野の融合と新分野の創成が不断に求められています。機械系工学群として提供されるより広く多彩な科目およびセミナー科目においてさらに研鑽を深め、より広い視野とより自在で積極的な思考力・応用力をあわせもつ航空宇宙工学分野の高レベルの研究者・技術者を育成します。

【修士課程教育プログラム】

○機械理工学専攻

機械工学の対象はマイクロからマクロにわたる広範囲な物理系であり、現象解析・システム設計から製品の利用・保守・廃棄・再利用を含めたライフサイクル全般にわたります。本専攻は、それらの科学技術の中核となる材料・熱・流体等に関する力学（物理）現象の解析および機械システムの設計論に関する教育・研究を行います。本プログラムでは、機械工学およびその基礎工学の研究者・技術者として、学問分野、産業界、社会で求められているニーズに応えるべく、基本的な機械工学およびそれに関連する基礎工学の学理を習得することを目的とし、深い洞察力と知的蓄積を背景にした豊かな創造力を有する研究者・技術者を養成します。

○マイクロエンジニアリング専攻

微小な機械システムは 21 世紀における人間社会・生活に大きな変革をもたらす原動力です。また、生体は最精密な微小機械の集合です。本専攻は、それらのシステム開発の基礎となる微小領域特有の物理現象の研究をはじめ、微小機械に特有の設計・制御論に関する研究・教育を行います。ナノメートルオーダーに代表される微小領域特有の物理現象を解明し、ナノ材料・ナノ構造の作製・加工からマイクロメートルオーダーの微小な機械の構造および機構の作製をはじめ、微小機械システムの設計および開発等の広範囲な分野に通用する能力を有する研究者・技術者を養成します。

○航空宇宙工学専攻

宇宙は 21 世紀における最大のフロンティアであり、自由な飛行は時代を超えた人類の夢です。その開発と実現を担う航空宇宙工学は、未知なる過酷な環境に対峙する極限的工学分野であり、機械系工学の先端知識を総合した革新的アイデアを必要とします。本専攻は、革新的極限工学としての航空宇宙工学に関する研究とその基礎となる教育を行います。航空宇宙工学に関する技術的知識の習得よりも基礎学力向上のための教育を重視し、工学基礎全般にわたって十分な基礎学力とそれらを自在に使いこなす豊かな思考力と応用力・創造力を有し、航空宇宙工学をはじめとした先端工学の分野の進歩発展に貢献し先導できる研究者・技術者を育成します。

IX. 教員・研究内容説明書

(機械理工学専攻)

研究内容	区分
機械システム創成学研究室 (塩見教授・中西講師) (1) 人と機械システムの相互作用・インタラクションデザイン (2) ソーシャルロボティクス・ソーシャルタッチ・ヒューマンインタフェース (3) サイバネティック・アバターの研究開発と社会実装 (4) 無人航空機の自律制御とその安全防災活動への適用 (5) 動作データや操作時系列データの解析に基づく技能分析	1
適応材料力学研究室 (西川准教授) (1) 材料力学と異分野の融合による先進複合材料のメゾスケール構造制御と高性能化 (2) 先進複合材料の固体力学と破壊力学 (3) 航空機用高剛化複合材の破壊力学特性発現機構のメゾメカニクス (4) 先進複合材構造の設計・製造と最適成形法に関する基礎科学 (5) 複合材料の破壊機構解明や構造健全性評価のための理論の展開	2
固体力学研究室 (平方教授・松永助教・王助教) (1) ナノ・マイクロスケールの材料強度と材料力学 (2) 電子を介した材料強度制御の基礎物理の確立 (3) ナノ構造体・二次元材料・薄膜の機械的特性および物性評価手法の開発 (4) 高強度・高機能ナノ構造材料の創製 (5) 力学と他の物理現象のマルチフィジックス	3
環境熱流体工学研究室 (長田教授・渡邊准教授) (1) 乱流構造とエネルギー輸送現象 (2) 乱流と衝撃波の干渉 (3) 空気力学(翼周りの流れと揚力/抗力など) (4) 高速流中の乱流現象 (5) 環境中の乱流拡散現象	4
熱システム工学研究室 (岩井教授・岸本准教授・栗山准教授・郭助教) (1) 熱流動場の先端計測・可視化・数値シミュレーション技術の開発 (2) 燃料電池・二次電池・触媒反応器内の輸送・反応連成現象に関する研究 (3) ナノ・マイクロ空間および界面における輸送現象の光学計測 (4) 複雑3次元構造の詳細解析および機械学習に基づく機能性多孔質体の最適設計 (5) エネルギーの変換・貯蔵に関する新コンセプトの創出と検証	5
光工学研究室 (蓮尾教授・四竈准教授・クズミン講師) (1) 分光手法・レーザー計測法の開発 (2) 各種プラズマの分光診断・計測 (3) 金属膜プラズマ駆動水素透過の分光診断 (4) 吸収・発光・散乱スペクトルを利用したセンサー開発 (5) 位相制御を用いた波面補償光学	6

研究内容	区分
材料物性学研究室 （嶋田教授・見波助教） (1) 材料力学・計算物理学・データ科学に基づく先端デバイス材料機能の研究開発 (2) 宇宙・極限環境での材料強度デザイン (3) 再生可能エネルギー応用への環境発電材料設計 (4) 人工知能(AI)・量子駆動デバイスに向けた量子物質科学：“一億分の1”世界の機械へ (5) 機械学習とスーパーコンピュータによるデータ駆動型材料研究技術の開発	7
熱物理工学研究室 （黒瀬教授・ピライ准教授・若林助教） (1) 乱流燃焼機構の解明とモデリング (2) 混相流に関する運動量・熱・物質の移動現象の解明とモデリング (3) AIを駆使した燃焼モデルと高性能コンピューティング手法の確立 (4) スーパーコンピュータを用いた超大規模数値シミュレーションの実現 (5) 電源用ガスタービンやロケット・航空機等エンジンの最適設計に関する研究	8
機構運動工学研究室 （小森教授・寺川准教授・アマル講師） (1) ビークル／乗り物、搭乗型ロボット、搭乗型モビリティ、ライディングロボティクス (2) ロボット用メカニズム(機構)の開発・設計、移動ロボット、自動車用メカニズム (3) ヒトの動作特性の不思議を知る、ハプティクス(触覚・力覚)、ロボット操作、インタフェース開発 (4) ヒトの未知の能力を発見する、能力マイニング、足・脚による操作 (5) 動きとアート／デザイン	9
ロボティクス研究室 （細田教授・川節講師） (1) 人工筋駆動ロボットによるマニピュレーション (2) イオンゲル・イオン流体を用いたソフトセンサ (3) ソフトハンドによる物体の識別とマニピュレーション (4) インソールセンサの開発と応用 (5) 生物規範ロボット	10
機械機能要素工学研究室 （平山教授・安達准教授） (1) 機械要素の高効率化・高機能化に向けた最適設計指針の提示 (2) 低摩擦摺動を可能とする材料／潤滑油／摺動面形状の開発と評価 (3) ナノ／メゾ／マクロを繋ぐ表面・界面のトライボロジー特性計測 (4) 粒状体界面現象の解明と制御を目指した機器表面設計指針の構築 (5) 電磁粒体力学と粒状体ハンドリングおよび月・火星探査技術への応用	11
量子ビーム物質解析学研究室（複合原子力科学研究所） （奥地教授・有馬准教授・梅田助教） (1) 中性子線・X線・電子線による物質材料の構造解析技術の研究開発 (2) 高温高圧力環境における物質材料の合成とマルチスケールでの構造解析 (3) 宇宙空間・地球深部に存在する結晶・非晶質物質の人工合成と解析 (4) 高温・高圧力・高ひずみ状態の発生・制御・時間進展計測技術の研究開発 (5) 中性子回折装置の設計と工学利用の研究	12

(マイクロエンジニアリング専攻)

研究内容	区分
構造材料強度学研究室 (泉井教授・林講師・石田助教) (1) 複合領域および複合物理問題の最適システム設計 (2) 形状・トポロジー最適化 (3) 機械製品・生産システムの構想設計法 (4) ユニバーサルデザイン (5) サステナブルエンジニアリング	1 3
マイクロバイオシステム研究室 (横川教授・藤本准教授・松本助教) (1) 生体分子・細胞計測のためのマイクロ・ナノシステムの設計と加工に関する研究 (2) オンチップ血管網を用いた腫瘍微小環境形成過程の再現と解明 (3) ヒト iPS 細胞由来オルガノイドを用いた脳・腎臓の臓器モデル創製と創薬応用 (4) ウイルス感染モデルを用いた組織間相互作用の解明 (5) 機械学習を用いた血管網をはじめとする 3 次元培養組織の形態および形成過程の解明	1 4
ナノ・マイクロシステム工学研究室 (土屋教授・廣谷准教授・霜降助教) (1) ナノ・マイクロスケールの材料創成・加工・プロセス・デバイス・システム (2) マイクロセンサ・アクチュエータ (慣性センサ、共振子、光学素子) (3) ナノ・マイクロスケールにおけるエネルギー輸送・変換の計測と制御 (4) ナノ・マイクロ機械デバイスを用いた機械学習システム (5) IoT や生体情報計測のためのフレキシブル・ストレッチャブルデバイス	1 5
ナノ物性工学研究室 (中嶋准教授) (1) 量子ビームと固体表面の相互作用に関する研究 (2) 高分解能イオン散乱分光法の開発と応用に関する研究 (3) 高速クラスターイオンと物質の相互作用およびその応用に関する研究 (4) 透過型二次イオン質量分析を用いた新しいイメージング質量分析法の開発 (5) 高速重イオンを用いた高感度二次イオン質量分析法の開発	1 6
生命数理科学研究室 (井上教授・瀬波講師・森川助教) (1) 生きものらしさが現れるダイナミクスの解明 (2) 複雑適応システムの構造と発展の理論 (3) 生命システムの制御機構の解明 (4) 生物の形態形成の数理モデリングと工学応用 (5) 計算科学に基づいた量子現象の基礎理論の探求と工学応用手法の開発	1 7
マイクロ加工システム研究室 (鈴木教授・名村准教授) (1) 光熱加熱を活用した相界面ダイナミクスの理解と制御 (2) マイクロ・ナノ気泡力学 (3) ナノ構造がもたらす相界面ダイナミクスと熱・物質輸送機構の理解 (4) 物理的な自己組織化法によるナノ形態の制御に関する研究 (5) 形態を制御したナノ粒子・ナノワイヤの形成と応用に関する研究	1 8
精密計測加工学研究室 (河野准教授) (1) 工作機械の運動誤差の計測と補正 (2) サステナブルな計測・加工システムの開発 (3) 切削加工プロセスのモデル化とデザイン (4) 工作機械の動的・熱的モデルの構築とその応用 (5) Additive Manufacturing の生産加工プロセスへの応用	1 9
バイオメカニクス研究室 (医生物学研究所) (安達教授・牧准教授・竹田助教) (1) 力学環境に応じた生体システムの構造・機能適応のメカニズム (2) 多細胞組織の発生・形態形成の多階層力学モデリングとシミュレーション (3) 骨細胞の力刺激感知と細胞間コミュニケーションによる骨リモデリング (4) ゲノム DNA の力学動態を介した細胞運命決定メカニズム (5) 細胞内構造の力学制御に基づくマイクロ・ナノマシナリー創製	2 0

研究内容	区分
<p>ナノ生物工学研究室（医生物学研究所）（新宅教授・金子助教・峯岸助教）</p> <ul style="list-style-type: none"> （1）細胞生物学のためのナノ・マイクロ流体工学 （2）細胞力学と遺伝子制御 （3）細胞動態と遺伝子発現の時系列計測による遺伝子制御ネットワーク解析 （4）細胞周辺微小環境の in vitro 再構築のためのナノ・マイクロ工学 （5）細胞動態と遺伝子発現制御を接続する機械学習プラットフォームの構築 	2 1

(航空宇宙工学専攻)

研究内容	区分
流体力学研究室 (杉元講師) (1) 衝撃波を伴う高速気流解析 (2) 高度に希薄な気体の流れの解析 (3) 真空に関する流れ場のシミュレーション (4) 気体論方程式の数値解法 (5) 分子気体効果を利用した気体分離システムの試作研究	2 2
流体数理学研究室 (高田教授・辻准教授・初鳥助教) (1) 運動論方程式に基づく流体中の非平衡現象の数理解析とシミュレーション (2) 非平衡流体における相反性の理論とその応用 (3) すべり流 (希薄気体効果) の理論とその応用 (4) 相変化の非平衡動力学とそれによる気体力学の拡張 (5) 多孔体内気体輸送の運動論モデリング	2 3
推進工学研究室 (江利口教授・占部准教授) (1) プラズマと固体表面との物理的・化学的相互作用に関する基礎研究 (2) 固体表面及び微細構造内におけるプラズマからの粒子・エネルギー輸送に関する研究 (3) プラズマプロセスおよび高信頼性デバイス作製技術に関する研究 (4) 宇宙推進工学、特に電気推進器の高信頼性化に関する基礎研究 (5) 宇宙マイクロ・ナノ工学の創成 (超小型推進、高機能材料・デバイスなど) に関する研究	2 4
制御工学研究室 (藤本教授・丸田准教授・鹿田助教) (1) 最適制御・非線形制御などのシステム制御理論 (2) 宇宙機の姿勢制御・最適設計 (3) 統計的学習・確率システム制御 (4) 制御系設計のためのシステム同定 (5) データ駆動型制御系設計	2 5
機能構造力学研究室 (琵琶教授・石井助教) (1) 複雑な微視構造・界面を有する固体における弾性波伝搬挙動の解析 (2) フォノン結晶・音響メタマテリアルによる弾性波機能構造の解析 (3) 非線形超音波特性に着目した欠陥・損傷の非破壊評価 (4) 超音波スペクトロスコープによる航空機構造用複合材料の特性評価 (5) 高速き裂進展における動的不安定性の解析	2 6